

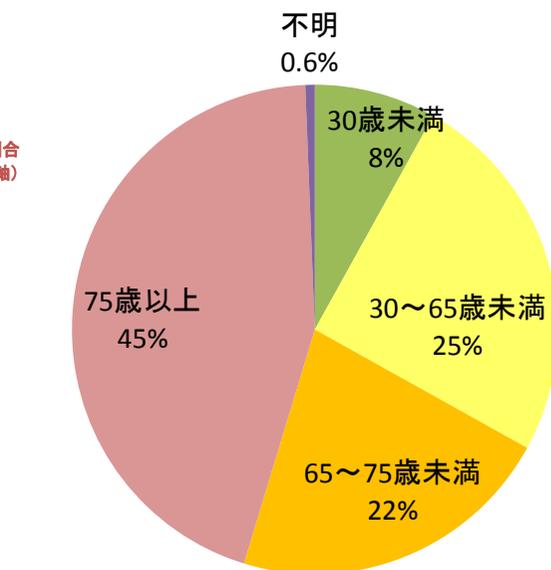
# 高速道路における逆走対策

---

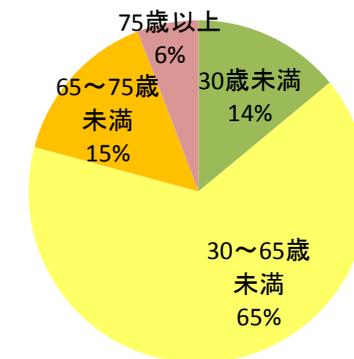
○ 平成28年の逆走件数は249件、うち約2割が事故に至っている。  
 ○ 75歳以上の割合は、免許保有者の6%であるのに対し、逆走した運転者の45%を占める。



〈逆走発生件数の推移と発生箇所〉



〈逆走した運転者の年齢〉



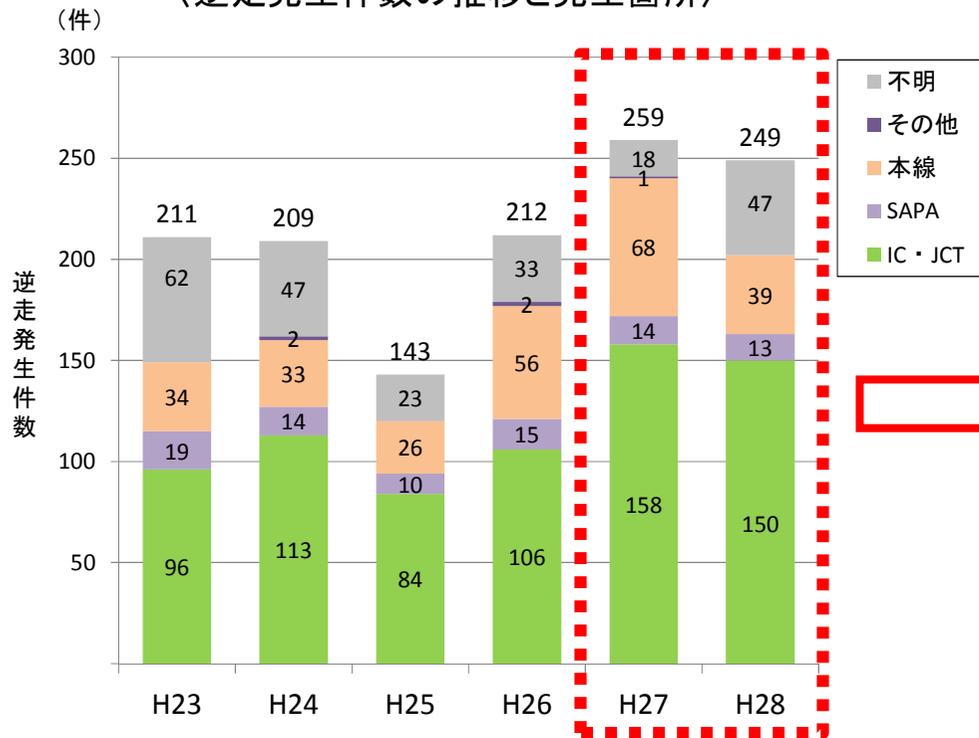
〈参考: 免許保有者の年齢〉

※平成27年度運転免許統計より

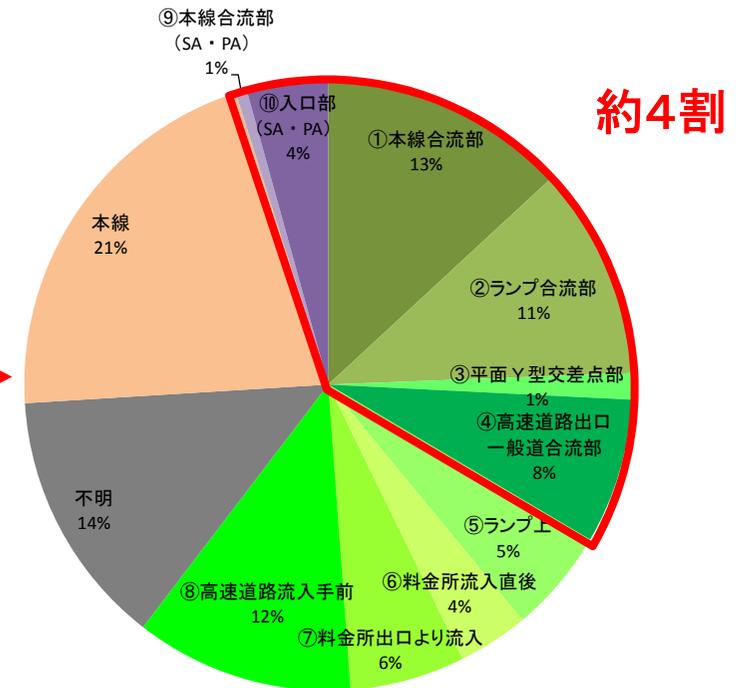
データ: H23～28年の高速道路(国土交通省及び高速道路会社管理)における事故または確保に至った逆走事案 N=1,283  
 出典: 警察の協力を得て国土交通省・高速道路会社が作成

- 逆走発生箇所の約7割が「分合流部・出入口部・料金所付近」で発生。
- このうち、全体の約4割を占める「分合流部・出入口部」での対策を実施中。

〈逆走発生件数の推移と発生箇所〉

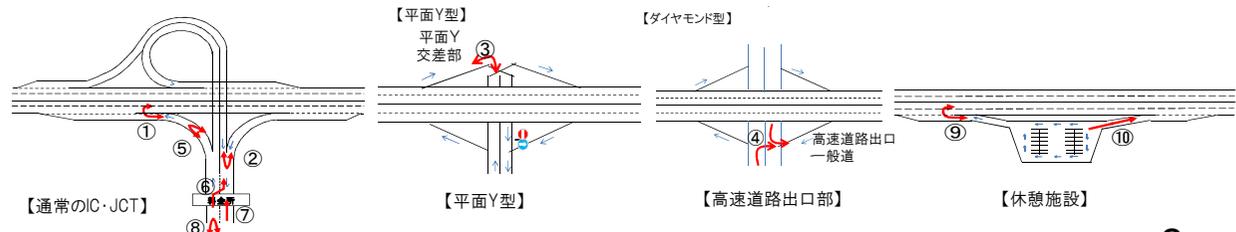


〈逆走開始詳細位置〉



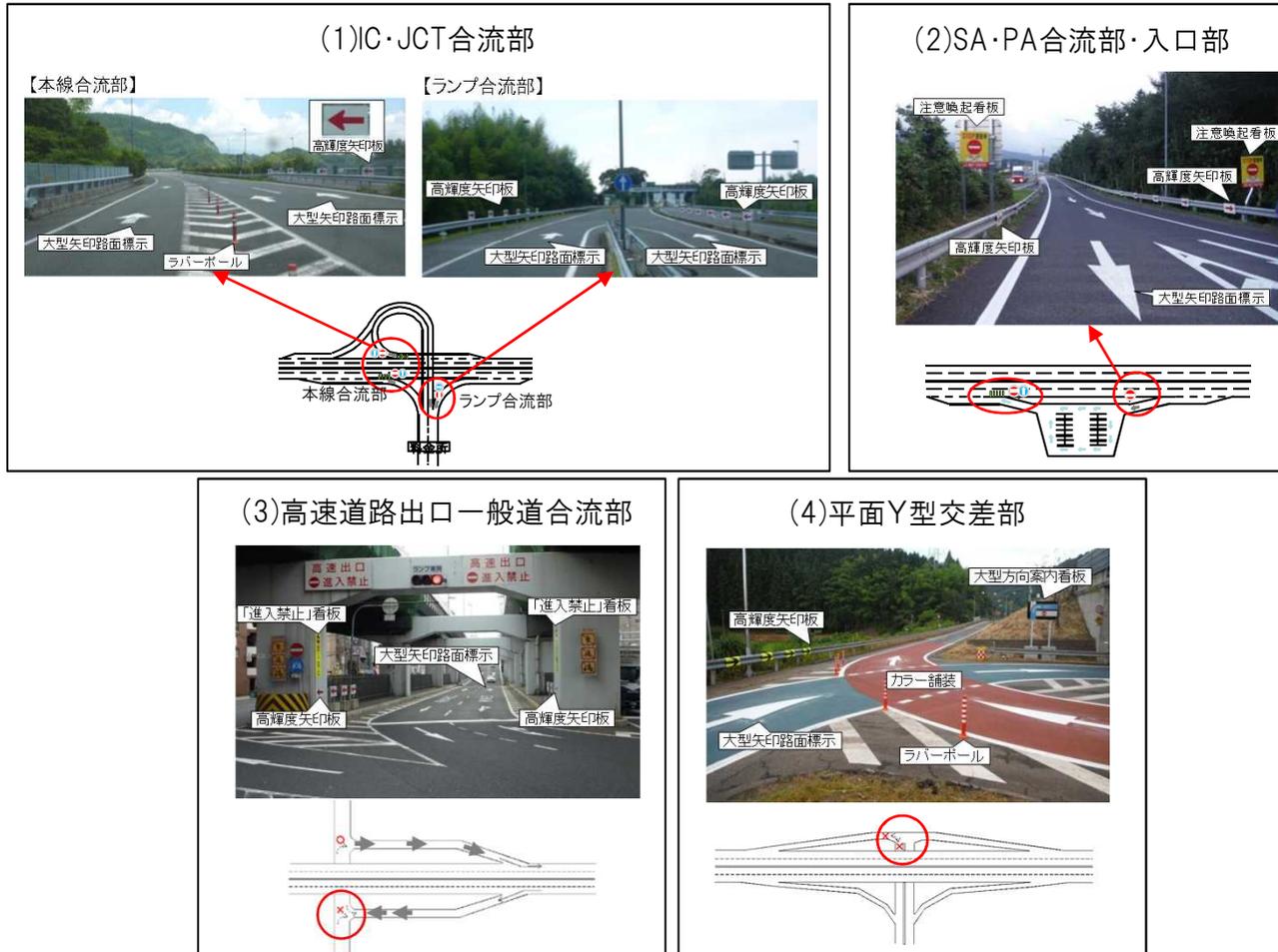
データ: H27~H28年逆走事案 N=508

データ: H23~28年の高速道路(国土交通省及び高速道路会社管理)における事故または確保に至った逆走事案 N=1,283  
 出典: 警察の協力を得て国土交通省・高速道路会社が作成

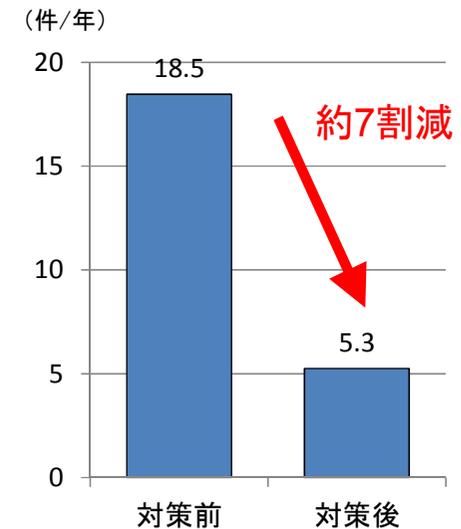


○逆走対策を実施した施設では、対策前に比べ**逆走件数が約7割減少**しており、対策の効果を確認。  
 ○平成28年度末時点で「分合流部・出入口部」について**約7割の施設で対策済**。

## 〈分合流部・出入口部の対策〉



## 〈対策実施前後の逆走発生件数〉



【集計条件】  
 対象施設：高速道路会社がH27.11に公表した優先対策箇所の内、対策実施済箇所(83施設)  
 対象期間：H27～H28  
 集計条件：逆走開始位置が対策実施位置の事案を対象とし、対策日を基準に年換算値を算出

## 【公募概要】

公募期間：平成28年11月22日～平成29年2月10日

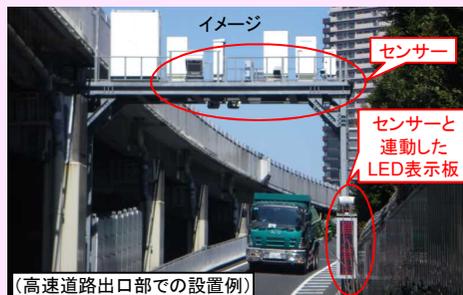
公募主体：東日本高速道路(株)、中日本高速道路(株)、西日本高速道路(株)

	テーマⅠ	テーマⅡ	テーマⅢ	計
応募提案数	56	36	8	100
選定提案数	14	9	5	28

### テーマⅠ

○道路側での逆走車両への注意喚起

- ・ センサーとLED表示板・音・光等を用いた注意喚起 等



○道路上の物理的・視覚的対策

### テーマⅡ

○道路側で逆走を発見し、その情報を収集する技術

- ・ 路側カメラ、3Dレーザーセンサー等の路側機器・路側センサーの活用
- ・ 道路管制センターとの連動 等



### テーマⅢ

○車載機器による逆走車両への注意喚起

- ・ カーナビにより、ドライバーに対し警告 等



○自動車側で逆走を発見し、その情報を収集する技術

- ・ 車載カメラにより標識を認証して逆走を判断し、ドライバーに対し警告 等